

## 第19回 光合成の色素系と 反応中心に関するセミナー

テクニカルセミナー



## 質量分析の仕組みと使いみち

工藤 寿治 (ブルカー・ダルトニクス株式会社 アプリケーションエンジニア)

質量分析は低分子から高分子まで様々なサンプルに対応することが可能であり、現在も様々な研究分野へとその応用範囲を拡大し続けています。ソフトイオン化法を用いることによるタンパクのような巨大分子の直接測定や、そのアミノ酸配列解析はもちろんのこと、低分子の元素組成解析、生体組織切片のような二次元サンプル内での分子量の局在を可視化するイメージングMS、もしくはライブラリ検索による細菌の同定等といった、専用のハードウェア・ソフトウェアが開発・市販されているものだけでも多岐にわたります。

測定の原理から前述のようなアプリケーションまで、いくつかの測定事例を交えつつ質量分析について概説いたします。



Ion Trap MS  
**amazon**



MALDI-TOF/TOF MS  
**ultraflextreme**



Qq-FTMS  
**solarix**

ESI-Qq-TOF MS  
**maxis**



MASS SPECTROMETRY